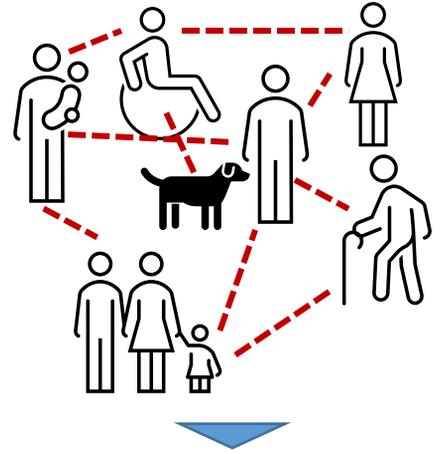


菊水健史（社会内分泌） 永澤美保（同調的共生） 茂木一孝（社会神経科学）  
久世明香（発達行動） 石原淳子、小手森綾香（食のデータサイエンス）

## 研究の背景

- ・ イヌが介在することで、地域におけるヒトのつながりが生まれるといわれています。特に見知らぬ人との声かけは、地域社会におけるネットワークを高めそれを介して、ヒトのウェルビーイングが高まると考えられています。
- ・ しかし、これまでの調査はアンケートに限られており、定量的な測定による、イヌの効果を調べたものではありません。
- ・ 今回、Exkumaという経験サンプリング法を用い、さらにヒトのホルモンや腸内細菌叢を解析し、イヌによるヒトのネットワークの強化とウェルビーイングの関係を明らかにします。



ウェルビーイング

## アプローチ

- ・ 高校生から大学生を対象にします。
- ・ 2週間のアンケート調査、ホルモン/細菌叢調査を実施します。
- ・ Exkumaを用いて簡単な毎日のヒトとのかかわり方を調査します。
- ・ また対象者のウェルビーイングや社会関係資本、地域とのつながりを調査します。
- ・ これらの調査内容にどのようなつながりがあるかを統計学的にしらべます



## 期待される結果

- ・ イヌの飼育や散歩が、ヒトのつながりを生むかを明らかにできます。
- ・ ヒトのつながりが地域における社会関係資本を高めるかがわかります。
- ・ 最終的には、世界でも最低レベルといわれる思春期から青年期の日本の若者のウェルビーイングを高めることにつながることを期待されます。

## 募集方法

- ・ 本実験は、研究参加者と緻密かつ丁寧なやり取りが求められます。
- ・ 根気強く調査を続ける継続性が求められます。
- ・ グループとして実施しますので、協力しながらできる力が必要になり、それが養われます。
- ・ ものすごいチャレンジングなテーマです。強い気持ちでやってみたい学生さん、是非どうぞよろしくおねがいします！

